# ✔伊勢物語の特徴

歌物語 の最初 の作品

在原業平 〕とみやびの文学

# ♥さらに詳しく

して物語が展開され、それぞれが独立した物語となっている。 中古・平安初期の成立。 一二五段前後から成るが、各段に必ず一首以上の歌をふくみ、その歌を中心と いわゆる典型的な「 歌物語 」であ

的歌人であり、〔 六歌仙 各段の多くは「昔、 男ありけり」で始まり、その 〕の一人である〔 「男」(主人公)は『〔 在原業平 〕と想像される。 古今和歌集 0) 代表

旅情などを描いている。 であり、文体は簡潔で、叙情性も豊かである。 全体の約三分の二の段が〔 男女の愛情 一貫する精神は、平安貴族の理想とする「〔 )を取り上げ、残りの段で肉親の情・主従の情・友情 みやび 〕」(優雅なふるまい)

段)、「〔 筒井筒 が挙げられる。 有名な段としては、「初冠の段」(一段)、「「 〕の段」(二三段)、「梓弓の段」(二四段)、「惟喬親王の段」(八二・八三段)など、 の段」(二三段)、「梓島のみ 芥川 の段」(六段)、「〔 東下り の段」(九

# 芥川 (六段)

### 登場人物

○男

○太郎国経の大納言 ○太郎国経の大納言 ○堀川の大臣 ポースをごん たろうくにつね だいなごん なこん

# ●歌について

# 白玉か 何ぞと人の 問ひし時 つゆとこたへて 消えなましものを

訳 (あれは) 白玉(真珠)ですか、何ですかとあの人が尋ねたとき、(あれは) 露ですよと答えて (私も露のように) 消えてしまえばよかったのになあ。 (そうすれば、 悲しまずにすんだのに。)

問一 「あの人」 とは誰ですか。 女 (二条の后)

問二 この歌を詠んだのは誰ですか。 男

### 東下り (九段)

〇男 ○友とする人 ○修行者 ○渡し守

# ♥歌について (現代語訳文の空欄に、 適当な語句を入れなさい。)

から衣 はるばるきぬる 着つつなれに 旅をしぞ思ふ つましあれば

訳 Þ 何度も着ているうちに肌に って来た旅が 親しんできた妻が(都に残って) (しみじみと悲しく)思われることだ。 なれる  $\_$ から衣のように、 いるので、 はるばる 長年



問 なさい。 次の修辞法の正しい 組み合わせを線で結び、 ①の歌で使われているものがある場合は、 p. 98 \( \) それを指摘し 99参照)

○ 縁 語ご ○枕詞 ○序詞 ○折句 ●かけことば 音が多い。 特定の言葉の上に置かれ、 歌の中心となる語句と縁のある言葉を使い、 音以上のもの。作者が情意をもって自由に作り出す一回限りの表現であることが多い。 特定の言葉の上に置かれ、 仮名五文字を、 ①の場合 同音異義語を利用して、 ①の場合 ①の場合「 ①の場合 ①の場合 【※褻れ(衣服がなじむこと) 修飾する語との関係は習慣的に一定している。 句から五句までのそれぞれの頭に置いて歌を詠むこと。 |語またはその|部分に二つ以上の意味を兼ねさせる技巧。 その言葉を飾ったり歌の調子を整えたりする語のうち五 その言葉を飾ったり歌の調子を整えたりする語。 つま = (衣の)褄・妻/はる = 張る・ から衣・着・なれ・ 使われていない かきつばた からころも 歌にあやをつける手法。 つま・ は はるばる /き=来・着 五.

# 2 駿河なる 宇津の山辺の うつつにも 夢にも人に あはぬなりけり

訳 あなたと会わないことだなあ。(それは、あなたが私を忘れてしまったからだろう。)駿河の国にある宇津の山のあたりにさしかかったが、(その山の名前のように)〔 現実 igcupでも夢の中でも

# 3 時知らぬ 山は富士の領 いつとてか 鹿の子まだらに 雪の降るらむ

訳 時節をわきまえない山は、富士の山である。 今をいつだと思って、鹿の子まだらに 〔 雪が降 0 7 V るのだろうか

# 4 名にし負はば いざこと問はむ 都鳥 わが思ふ人は ありやなしやと

訳 (都という) 名前を持っているならば、 らしているのかいないのかと。 さあ尋ねよう、 都鳥よ、 私の  $\overline{\phantom{a}}$ 恋しく思う人 は (都で)無事に暮

# (三三段)

女=元の女=この女

(幼なじみ・最初の妻)

男=隣の男=大和人

(新しい妻)

かの女

# ♥歌について

- 筒井つの 井筒にかけし まろがたけ 過ぎにけらしな 妹見ざるまに
- 訳 (幼いころ)筒井の井筒(井戸の枠)と高さを比べた私の背丈も、 なたと会わないでいる間に。 (井筒の高さを)越えてしまったことだろうよ。 あ
- 2 比べこし 振り分け髪も 肩すぎぬ 君ならずして たれかあぐべき
- 訳 たい誰のために髪上げをしようか。(あなたのためにするのだ。) (あなたと長さを) 比べ合ってきた私の振り分け髪も、肩を過ぎるほど長く伸びてしまった。 あなたではなく、 11 0
- 訳 ③ 風吹けば 沖つ白波 たつた山 夜半にや 君が ひとりこゆらむ
- 風が吹くと沖の白波が立つ、その「〔 たつ 〕」という名の龍田山を、夜中にあなたは一人で越えているのだろうか。
- 4 君があたり みつつを居らむ 生駒山 雲な隠しそ 雨は降るとも
- 訳 あなたの(いらっしゃる)あたりを見つめながら暮らしていよう。生駒山を、雲よ隠さないでくれ、 たとえ雨は降っ
- (5) 君来むと 言ひし夜ごとに 過ぎぬれば 頼まぬものの 恋ひつつぞ経る
- 訳 あなたが来ようと言った夜ごとに れでもあなたを)恋しく思い続けて日を送っていることだよ。 (待っていたのに、むなしく時間が)過ぎてしまうので、もうあてにはしないが、(そ
- 問 ~5の歌を詠んだのは、 それぞれ誰ですか。
- ①~⑤の歌の囲み部分はすべて「あなた」を意味する言葉ですが、

この

「あなた」とは、

それぞれ誰

問二

1

男

2

 $\overline{\phantom{a}}$ 

女

3

女

4

かの女

igcup

(5)

 $\overline{\phantom{a}}$ 

かの

女

1

2

男

 $\overline{\phantom{a}}$ 

3

男

\_

4

男

igcup

(5)

 $\overline{\phantom{a}}$ 

男

を指しますか。

- 問三 ③の空欄に当てはまる適当な言葉を書き入れなさい
- 問四 ④の傍線部「雲な隠しそ」について、何を隠さないでくれと言ってい (男の住んでいる方向にある) 生駒山

るのですか

122

123

# ▽大鏡の特徴

- ・歴史物語 〔 鏡物 〕の先駆
- ・道長摂関政治に 【 批判 】的

# ▽さらに詳しく

文徳天皇の嘉祥三年(八五〇)から後一条天皇の万寿二年(一〇二五)に至る、一四代・一七六年間の歴の三人が相づちを打ち補足するのを、そばで聞いていた筆者が筆録するという形をとる。 (18歳、流布本40歳)、繁樹の妻、 成立は平安後期と推定される。 内容は、紫野の雲林院の〔 鏡は「〔 若侍(30歳くらい)らが会い、主に〔 菩提講 歴史を写すもの が始まる前に、 大宅世継 (190歳、流布本15歳) と夏山 \_\_\_\_ が歴史を語り、 |繁樹

史を物語風に記す。この人物中心の歴史叙述法を、 中国の『二史記 〕』にならって「 紀伝体

という)が次々と書かれた。 戯曲的対話形式という方法で道長の功罪を挙げ、 歴史物語の先駆となった『〔 人間の歴史の真実 水鏡 〕に迫ろうとしており、 栄花物語 増鏡 〕」などの鏡物 歴史資料としても価値が高い。 一面的な道長賛美 批判者の視点 (『大鏡』を加えて「〔 〕に終始しているのに対し、 から語っている。 この影響を受けて、 四鏡 深く

# 雲林院の菩提講

### 冒頭部

といきあひて同じ所に居ぬめり。 先つころ、 雲林院の菩提講に詣でて侍りしかば、 例人よりはこよなう年老い、うたてげなる翁二人、嫗

- 問一 傍線部①の主語は誰ですか。〔 筆者 〕
- 問二 同じ傍線部①「侍り」の意味・用法について説明した、 入れましょう。 次の文の空欄に当てはまる適当な言葉を書き
- **\*** み手) に敬意を表すために用いる「 ラ行変格 〕活用の補助動詞「侍り」の 丁寧 語。  $\overline{\phantom{a}}$ 連用  $\smile$ 形で、 話し手 (書き手) が聞き手 (読
- 問三 傍線部②について、推量の助動詞「めり」を使うことで、断定を避け遠回しにいう婉曲表現を用 ますが、その理由として最も適当と思われるものを次から選びましょう。 W て
- 老人たちが普通の人とは異なって、まるで幽霊のように姿が透けて見えたため。
- イ 筆者は老人たちのことを直接見ていないため。
- (ウ) 筆者はやや離れたところから老人たちを見ているため。

# ♥平家物語の特徴

- ・源平の興亡を描く〔 軍記物語  $\checkmark$
- 琵琶法師 が語り伝え、 流麗な〔 和漢混交文 で書かれた。

# ♥さらに詳しく

としての「〔読み本 られている。異本が多く、 た琵琶法師の巨匠覚一によって応安四年(一三七一)に完成された〔 成立は明確ではないが、琵琶法師が「〔 大きく分けて、琵琶法師によって語られた「〔 〕」系とがある。 〕」として語り伝えたもので、 覚一本 語り本 南北朝時代に活躍し 〕が一般にはよく知 〕」系と、読み物

我が子、 義経の合戦譚など、様々な逸話を七五調を基調とした流麗な〔 和漢混交文
よいる かっせんたん 挙兵と敗退、平家を都から掃討しながら同族の頼朝に滅ぼされる 〔 源(木曽)義仲 〕、勇猛果敢な を起こし、平家繁栄の陰で泣く祇王・小督らの女性哀話、反平家の動きを見せる俊寛らの運命、以仁王のを起こし、平家繁栄の陰で泣く祇王・小督らの女性哀話、反平家の動きを見せる俊寛らの運命、はきのとおう 内容の中心は、〔 平家滅亡 安徳天皇を失った建礼門院の出家とその死で終わる。 〕の元暦二年(一一八五)までの約二○年間である。〔 平清盛 〕が太政大臣となった仁安二年(一一六七)から、壇の浦でのになる。 無常 〕で描く。覚一本では 〕を説く一文で筆

中世の謡曲や近世の浄瑠璃など、後代の文学に大きな影響を与えた。古代の終焉と中世の始まりという転換期を告げる作品で、『太平記』など軍記物語はもちろんのこと、古代の終焉と中世の始まりという転換期を告げる作品で、『たらへい』

祇園精舎の鐘の声、 諸行無常の響きあり。娑羅双樹の花の色、盛者必衰のことわりをあらはす。

ものは必ず滅びるという意の「〔 をはじめとする平家一門の権勢と滅亡を内容の中心に据えていることが読み取れる。 この冒頭文に見られるように、万物はすべて移り変わるという意の「〔 無常観 〕を説く。さらに「おごれる人も久しからず、唯春の夜の夢のごとし。」と続き、 盛者必衰 〕」を掲げ、 『平家物語』全編を貫く根本主題として 諸行無常 〕」と、栄える

## 木曽の最期

# 人物関係図

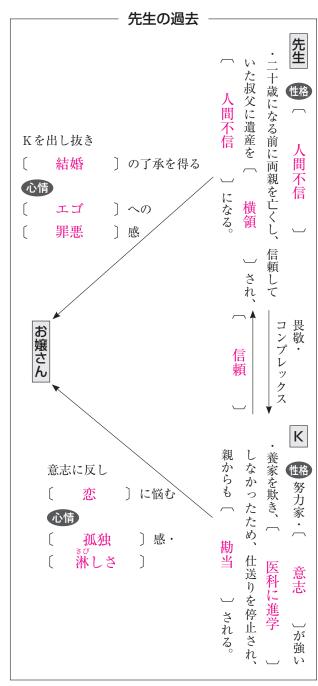


## 『こころ』 登場人物関係図

学生生活 〕を送る。

い影 を持つ 先生の過去 に興味を抱く。

先生からの 遺書 の中で明かされる



# ♥夏目漱石について 〈一八六七(慶応三)年~一九一六(大正五)年〉

を連載。 始める。 途中に、伊豆の修善寺で大吐血し、生死の間をさまよう。この「〔 盛期であったが、 間観・死生観に大きな変化をもたらし、エゴイズムの問題を追究した『彼岸過迄』『行人』『〔 郎』などを掲載。 明治四〇年、 同二八年、 第一高等中学校本科に進学。この頃、同級生の も精力的に行った。 が書かれることとなる。 として 東京牛込に生まれる。 漢学塾の二松学舎に入学、 坊つちやん は、 (東京帝国大学) 以後、『倫敦塔』『〔坊つちやん 明治二三年、 旧制松山中学に〔 故事成語「〔 ロンドン 教職を辞め 「三部作」と呼ばれる『三四郎』『[ 漱石は余裕を持って人生を眺める立場を崩さず、「〔 の執筆にとりかかったが、 晩年には漱石が到達した理想の境地「〔 に陥る。 ]] を生む。 〕講師を務めながら、高浜虚子の勧めで「ホトトギス」に『〔 このころ漱石は、 生後すぐ里子に出されたり、 〕に渡った。 東京帝国 石に漱ぎ流れに枕す この留学体験から、「〔 朝日新聞社 翌年、 英語教師 儒教 しかし、日々に実感する西洋との隔絶感などのために、 熊本の第五高等学校に教授として赴任。その後、 〕大学〔 病状が悪化し、 」に入社。 的な倫理観や 〕として赴任。 現代日本の開化 正岡子規 他家へ養子に出されたり 〕」から取られた。(p34参照) 英文 それから 草枕 以後、 自己本位 未完のまま亡くなった。 新聞小説として『坑夫』『夢十夜』 則天去私 〕」の作品化ともいわれている。 〕』や『私の個人主義』など、 この松山での体験が、 科に入学。 〕』を発表する。 〕から句作の手ほどきを受け、 ]』に続く『[ 修善寺の大患 〕」の立場を固めた。 余裕派 同二六年に大学院に進学。 〕」の作品化ともいわれる 的な美意識を身につけた。 吾輩は猫である 文壇は自然主義の最 早くから漢籍に親 なお、 〕」と批判された。 」は、 後に中編小説 こころ 文部省留学生 筆名である 〕』を執筆 漱石の人 帰国後、 強度の 俳句を

### 状況設定

0 城崎温泉 兵庫

「自分」の境遇〔 山の手線の電車に跳ね飛ばされてけがをした。

### 心境の軌跡

# 生と死 〕について考える

毎日せわしく働いていた一 匹の蜂の死。

死者の

### **2** 鼠禁

小川で首に串を刺され、 あがき回る鼠

生きるものの

死ぬに決まった運命 を担いながら、

全力を尽くして逃げ回っている 〕様子が妙に頭に付いた。

自分は寂しい嫌な気持ちになった。 あれが本当なのだと思った。

### ❸いもり

驚かすつもりで投げた石が当たって、 死んでしまったいもり。

生と死を分か 9 偶然性

自分は偶然に「 死ななかった  $\checkmark$ いもりは偶然に 死んだ  $\vee$ 

は両極ではなかった。

さして
「 差はない 〕ような気がした。

# ▽志賀直哉について 〈一八八三(明治一六)年~一九七一(昭和四六)年)

文壇に確固とした地位を得る。『小僧の神様』を発表後、直哉自身の内面的な発展を主人公 毒事件の見解について「 慕われた。 戦後は小説らしい てられる。 宮城県石巻町に生まれる。二歳のころ、東京の祖父母宅へ転居。実業家の祖父の保護のもと、 東京帝国 時任謙作 城の崎にて 大津順吉 武者小路実篤 〕らとともに「〔 学習院初等科に入学し、キリスト教思想家「 小説を書くことはなかったが、 〕大学英文学科に入学。〔 京都・ に託した長編小説 〕』、父との不和を解消していく過程を描いた私小説『〔 千葉県我孫子と転々とした。大正六年、心境小説の領域を開拓した 清兵衛と瓢簞 父 と衝突。 『「暗夜行路 〕』など次々に発表した。 国文学 白いいは 短編小説の名手として「〔 以後、 〕』の連載を始め、 決定的な不和の原因となる。 〕」を創 内村鑑三 〕科に転じた後、 刊。 父との不和が原因で、 の影響を受ける。足尾銅山鉱 完成まで十六年を費やした。 中退。明治四三年、 網走まで 小説の神様 和解 〕』を発表し、 明治三九年、 三年、同級生三年、同級生 東京を離



### 登場人物

老婆…死人の髪の毛を抜いて、 下人…使われていた主人から、 かつらにする商売を行っている。 四、五日前に を出された。

### 場 所

羅生門  $\smile$ の 下 楼上

### 時 間

ある日の 暮れ方

# 〇『羅生門』発表の時代

や森鷗外の『山椒大夫』などもない。これである。これである。これである。これである。これである。これである。これである。これである。これである。これでは夏日文学」誌上に掲載された。 年(大六)には志賀直哉の年(大六)には志賀直哉の 『城の崎にて』が発表された。 も発表されている。 なお、この前年(大三)に 『羅生門』は大正四年「帝

あらすじ 次の表内の空欄に適当な語句を書き入れ、 『羅生門』 のあらすじをまとめてみましょう。

	羅生門の楼上	梯子	羅生門の楼上へ出る	面
下人	老下。	下 老人 婆	下人人人	人物
を夜の底へかけ下りた。	・「この髪を抜いてな、かつらにしょうと思うたのじゃ。」 ( 得意 〕と〔 満足 〕とがあるばかりである。・老婆に太刀をつきつける。〔 憎悪 〕の心が冷める。安らかな		<ul> <li>・死骸の中にうずくまる、猿のような老婆を見つける。</li> <li>・明日の暮らしをどうにかしようとして、</li> <li>・雨に降りこめられ、行き所がなくて、〔 途方にくれていた 〕。</li> </ul>	状況、出来事、心情、会話文など

p.

222

224

## 国語図説 Ŧī. 版 羅生門 2

▽漢字の学習

(次の漢字の読みを書きましょう。)

平凡(	成就(	未練(	揺れる(	幸い(	局所(	空模様(	顧みる(	災い(	
へいぼん	じょうじゅ	みれん	ゆ	さいわ	きょくしょ	そらもよう	かえり	わざわ	
<u> </u>	$\smile$	$\smile$	$\smile$	$\smile$	$\smile$	Ú	$\smile$	$\smile$	
侮蔑	鋭い	塞ぐ	無造作	濁る	肯定	影響	暇	砕く	
$\overline{}$	$\widehat{}$	$\widehat{}$	TF	$\widehat{}$	$\widehat{}$	$\widehat{}$	$\widehat{}$	$\widehat{}$	
ぶべつ	するど	ふさ	むぞうさ	にご	こうてい	えいきょう	ひま	くだ	
<u> </u>	$\smile$	$\smile$	$\smile$	$\smile$	$\smile$	Ú	$\smile$	$\smile$	
恨む	存外	円満	範囲	天井裏	遠慮	夕闇	余波	始末	
	$\widehat{}$	$\widehat{}$	$\widehat{}$	7	$\widehat{}$	$\widehat{}$	$\widehat{}$	$\widehat{}$	
うら	ぞんがい	えんまん	はんい	天井裏(てんじょううら)	えんりょ	ゆうやみ	よは	しまつ	
$\overline{}$	$\smile$	$\smile$	$\smile$	5	$\smile$	$\smile$	$\smile$	$\smile$	

# ♥語句の学習(語句と意味の組み合わせを線で結びましょう。)

とりとめのない 途方にくれる 語弊がある 高をくくる かたをつける どうしたらいいかわからなくて困る。 言い方が適切でないため誤解が生じる 相手の程度を見くびる。 はっきりとしたまとまりがない 決着をつける。

# ♥芥川龍之介について 〈一八九二 (明治二五) 年~一九二七 (昭和二) 年

き神経質でひよわな体質の少年だったが、 た時刻も辰の刻(午前八時ごろ)だったところから、辰之助 = 「龍之介」 と命名されたという。 東京に生まれる。誕生日の明治二五(一八九二)年三月一日は、 学業成績は抜群で、泉鏡花や江戸の戯作に親しんだ。 辰の年辰の月辰の日で、 しかも生まれ 生まれつ

に参加し、 大正二年、 夏目漱石 一高から「 に激賞され、 東京帝国 〕大学英文科に進学。雑誌「〔 」につい で発表した 新思潮 (第三次·四次)]] 」 が

を発表。また『〔 日常生活とは異質の感動を求める、 大正四年末からは、漱石門下の集まりである木曜会にも出席した。 結婚の年 地獄変 〕』を新聞に連載した。さらに『奉教人の死』や『枯野抄』などによって、 芸術至上主義  $\overline{\phantom{a}}$ の作風を明瞭に示した。 (大正七) には『蜘蛛 の糸

会機運の中で、 身体の不調を訴えるようになる。 大正一一年、『藪の中』『トロッコ』などを発表するが、このころから神経衰弱や胃けいれんなどに悩み、 創作活動も停滞しがちになった。 さらに関東大震災以後の プロレタリア文学 igcupの勃興という社

安」を訴えて、 稿として残された。 昭和二年、『河童』 枕元に の執筆や 『聖書』 を置いて服毒自殺する。 谷崎潤一郎 igsquare。『歯車』『或阿呆の一生』『西方の人』などが、との論争などの活動を行うが、「唯ぼんやりした 「唯ぽん

232 233

### 登場人物

主人公…李徴

出身地〔

若くして超難関の資格試験 〕(進士) に合格。

豆知識 いと合格は難しい。試験は政治的な知識はもちろんのこと、 進士は、出自・家庭環境が良く、 幼いころから勉強してい な 漢

詩・文章が作れないと合格できない。

南尉

〕…江南地方の軍事や警察などを司る官

〕…片意地で他人と相いれない

自ら恃む所頗る厚く 〕…プライド が 高 11

●李徴 の親友



### 時代

天宝 〕の末年… 唐の時代。

□豆知識 唐の時代に活躍した詩人…杜甫・李白・王維など。28歳で即位した玄宗皇帝が〔楊貴妃(楊玉環)〕との愛欲に溺れ、28歳で即位した玄宗皇帝が〔楊貴妃(楊玉環)〕との愛欲に溺れ、 七五五年、 辺境防衛の任に当たる節度使が地方軍閥化し、〔 政治の腐敗が進んだ。 安史の乱 が起こった。

p. 328 331参照)

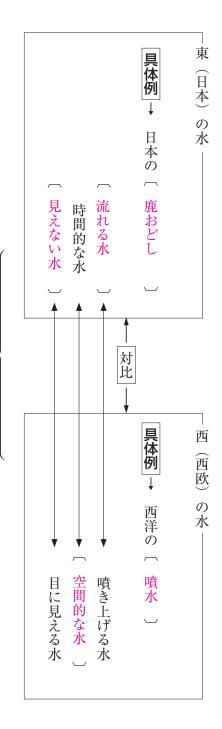
### あらすじ

と化した李徴に再会したかつての親友〔 文名はあがらず、再就職をする。プライドの高い李徴は、発狂し「 が心中の「 李徴は、「 虎 役人 〕となり、やがて体も〔 〕の生活に満足できず、〔 袁傪 虎 詩家 」 は、 〕となってしまったいきさつを聞く。 李徴自身から、 〕として名を遺すことを夢見て辞職するが、 〕に姿を変える。〔  $\overline{\phantom{a}}$ 詩に対する自意識

♥中島敦について 〈一九〇九 (明治四二) 年~一九四二 (昭和一七) 年)

を退職し、南洋庁書記官として〔 公論」の懸賞に応募し、『虎狩』が選外佳作となる。 精通する。 し広く認められたが、 が発表され文壇に登場した。帰国後、 一七年、〔 に入学、同八年に卒業後、横浜高等女学校に就職。 東京四谷に生まれる。 〔 第一高等学校 喘息 両親の別居に伴い、母と離別後、父について奈良・浜松・ソウルなどを転々とする。 パラオ の発作に苦しむようになる。 昭和二二年に『わが西遊記』が遺稿として発表された。 喘息が悪化し三三歳の若さで亡くなった。 中島家は 〕に赴任中、深田久弥の紹介で短編小説『古譚』(『〔 〕文科に入学。肋膜炎にかかり一年間休学。 スティーブンソン パラオ 漢学者 昭和五年、 〕に赴任するが、 教職に就きながら執筆を続け、昭和九年、雑誌「中央 〕の家系で、 昭和一一年には、 の晩年を描いた『〔 東京帝国 幼いころから漢学に親しみ、 喘息の発作と風土病に苦しむ。昭和 中国各地を旅行。 没後、 この頃から生涯の持病となる 〕大学〔 光と風と夢 山月記 昭和一八年 一六年には教職 国文 〕」、『文字禍』) 中国古典に 〕』を発表 大正一五 『弟子』、

# ♥評論中に示されている、対比、具体例を押さえましょう。



# 水に対する日本人の感性とは(まとめ)

らい。 さえないといえる。 かもしれない。 そう考えればあの「〔 鹿おどし 流れを感じることだけが大切なのだとしたら、 ただ断続する音の響きを聞いて、 」は、 日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛けだといえる  $\overline{\phantom{a}}$ われわれは水を実感するのにもはや その間隙に流れるもの 〕を間接に心で味わえば 〔水を見る必要〕

# **▽漢字の学習(次の漢字の読みを書きましょう。)**

受動的(	粘土	乏しいの	造型(	別莊	趣向	忙しい	仕掛けの	音響(	跳ねる(	愛嬌
受動的(じゅどうてき)	ねんど	とぼ	ぞうけい	べっそう	しゅこう	いそが	しか	おんきょう	は	あいきょう
	$\overline{}$									
行為	独特	発達	彫刻	埋める	凝らする	間隔	強調	刻む	徒労	一端
$\widehat{}$	$\widehat{}$	$\widehat{}$	$\widehat{}$	(a)	9	$\widehat{}$	<b>\( \)</b>	$\widehat{}$	$\widehat{}$	$\widehat{}$
こうい	どくとく	はったつ	ちょうこく	う	ح	かんかく	きょうちょう	きざ	とろう	いったん
$\smile$	$\smile$	$\smile$	Ċ	$\smile$	$\smile$	$\smile$	2	$\smile$	$\smile$	$\smile$
	感性	圧縮	掘る	壮大	郊外	華やか	素朴	静寂	曇る	緊張
	$\frown$	$\frown$	$\frown$	$\frown$	$\frown$	<i>y</i> ,	$\frown$	$\frown$	$\frown$	$\frown$
	かんせい	あっしゅく	ほ	そうだい	こうがい	はな	そぼく	せいじゃく	く も	きんちょう
	$\overline{}$	$\overline{}$	$\overline{}$	$\overline{}$	$\smile$	$\overline{}$	$\smile$	$\smile$	$\overline{}$	$\overline{}$

# ♥語句の学習(語句と意味の組み合わせを線で結びましょう。)

徒労 表情に乏しい 間が抜ける 息をのむ 趣向を凝らす いやがうえにも 苦労したことが無駄になってしまうこと。 感情による顔つきの変化があまり見られない。 恐れや驚きなどで一瞬息が止まる。 物事を行う際に、味わいやおもしろみが出るよう工夫すること。 手抜かりがあり不十分である。 すでにそうであるうえにいよいよ。